

し 知ってほしいこと、この条例が自指すもの、取り組むこと。

だれ 誰もが つながりあえる 社会を めざして…

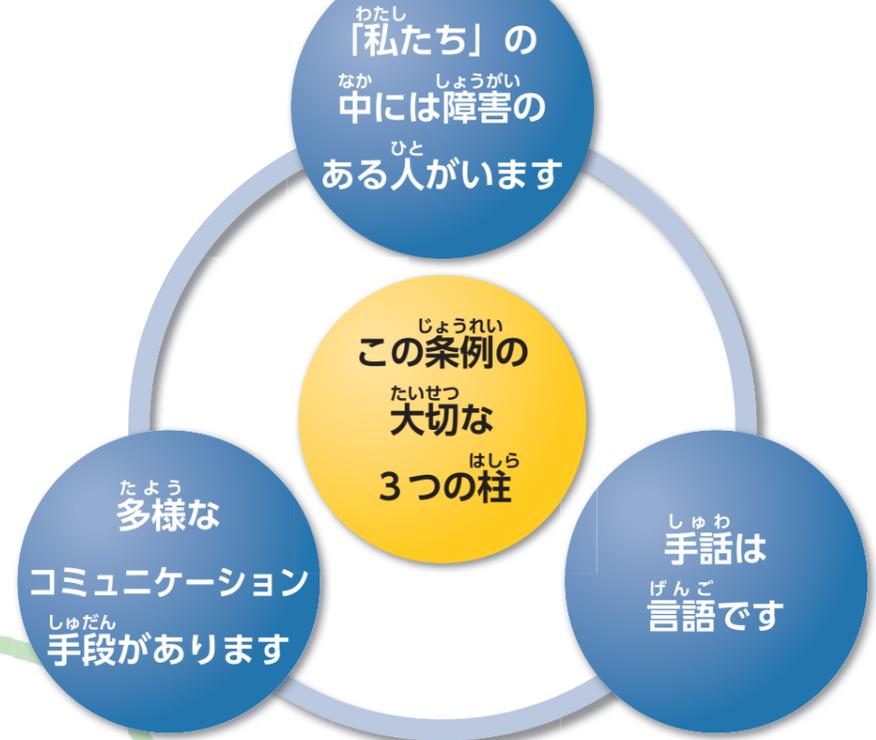
あやべししゅわげんご かくりつおよ たよう 「綾部市手話言語の確立及び多様なコミュニケーション手段の促進に関する条例」

し 知ってほしいこと	しょうがい ひと 障害のある人がいます	しゅわ げんご 手話は言語です	たよう 多様なコミュニケーションがあります
みんなで目指すもの	<p>しゃかい なか 社会の中には、さまざまな人がいます。</p> <p>しょうがい ひと 障害のある人もいれば、しょうがい ない 人もいます。</p> <p>しょうがい ひと 障害のある人の中には、見た目ではわからないしょうがい ひと もいます。</p> <p>さまざまな人がいることに気づき、お互いに理解を深め合い、尊重し合える社会を築きましょう。</p>	<p>にほんこくない おんせいげんご 日本国内では、音声言語である日本語と手話言語である日本語（ろう者が使うすべての手話を表す）が使用されています。</p> <p>ところが、手話は、手真似やジェスチャー、日本語に身振りや付けたものなどと誤解されることが多いため独立した言語として認識を深める必要があります。</p> <p>おんせいげんご にほんご どうよう 音声言語である日本語と同様に、じぶん ことば しょうわ しゃかい 自分の言葉として手話が当たり前に見える社会を目指しましょう。</p>	<p>しょうがい たよう しょうがい 障害には多様な障害があります。</p> <p>ちょうふくしょうがい ひと 重複の障害のある人もいます。またおなじ聴覚障害でも、聞こえなくなった時期や聞こえの程度によって、コミュニケーション手段は多様です。</p> <p>「聞こえないからできない」「見えないからわからない」と最初から決めず、多様な障害、多様なコミュニケーション手段を知ること、コミュニケーションすることをあきらめずに、誰もがつながり合える社会を目指しましょう。</p>
みんなで取り組むこと	<p>だれ しょうがい うむ 誰もが障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら、共に安心していきいきと暮らしやすい共生社会の実現を目指します。</p> <p>そのための施策を総合的に推進します。</p>	<p>しゅわ かくりつ げんご 手話が独立した言語であるとの認識及び関心を深めるための啓発に努めます。</p>	<p>いかに ことく 以下のことに取り組めます。</p> <p>①多様なコミュニケーション手段を用いることができる者の確保</p> <p>②誰もが容易にコミュニケーションができる環境の整備</p> <p>③多様なコミュニケーション手段の活用に関する学習の機会提供</p>
	<p>し しさく さん かおよ きょうりよく 市の施策に参加及び協力するよう努めてください。</p>	<p>しゅわ かくりつ げんご 手話が独立した言語であるとの認識及び関心を深めましょう。</p>	<p>たよう 多様なコミュニケーション手段を活用し、だれ ちいきしゃかい いちいん とし 誰もが地域社会の一員として日常生活及び社会生活を営めるよう努めましょう。</p>
	<p>し しさく さん かおよ きょうりよく 市の施策に参加及び協力するよう努めてください。</p>	<p>しゅわ かくりつ げんご 手話が独立した言語であるとの認識及び関心を深めましょう。</p>	<p>たよう 多様なコミュニケーション手段の活用により、だれ が利用しやすいサービスの提供、働きやすい環境の整備その他の合理的配慮を行うよう努めましょう。</p>

ろう者：手話を第1言語として日常生活又は社会生活を営む者
 事業者：事業を行う個人及び法人その他の団体（国及び地方公共団体を除く。）

お問い合わせ先

あやべしやくしょ 福祉保健部 福祉課 しょうがいふくしたんとう
 綾部市役所 福祉保健部 福祉課 障害福祉担当
 〒623-8501 京都府綾部市若竹町8番地の1
 TEL.0773-42-4254 FAX.0773-42-8953



だれ しょうがい うむ 誰もが障害の有無にかかわらず、手話やその他さまざまなコミュニケーション手段を活用することにより、お互いに尊重し合い、つながり合える共生社会を実現するため、平成30年4月にこの条例が施行されます。

し しみん じぎょうしゃ いったい とく 市・市民・事業者が一体となって取り組んでいきましょう!

あいて おも たが りかい 相手を思いやり、互いに理解しあうことで、えがお さ 笑顔が咲きほこる「あやべ」に。

あやべし 綾部市

このパンフレットのイラストは、綾部中学校美術部のみなさんにかいていただきました。



視覚障害

視力や視野に障害があり、眼鏡をつけても一定以上の視力がでなかったり、視野が狭くなり人や物にぶつかったりするなど、生活に支障をきたしている状態です。少し見える人、明るさなどがわかる人、まったく見えない人など、人によって見え方は様々です。



肢体不自由

四肢や体幹の機能が病気や怪我等で損なわれ、長期にわたり歩行や筆記などの日常生活動作に困難がともなう状態です。原因としては、先天性のもの、事故等による手足の損傷、脳や脊髄の損傷、関節等の変形からなるもの等があります。



精神障害

ストレスなどの原因により、脳の何らかの機能障害がおこり日常生活に困難をきたしている状態です。統合失調症やうつ病などが含まれます。正しい知識が普及してこなかったことから、「何を考えているかわからない」「怖い」などのイメージをもたれ、長い間、差別や偏見の対象となってきました。服薬や、その他の適切な治療と周囲の方々の配慮によって症状をコントロールできることが多いです。またこの病気は誰でもかかる可能性があり、近年は治療効果の高い新しい薬が登場したおかげで早期の回復や社会復帰が可能となりました。



高次脳機能障害

病気や事故などの原因で脳が損傷され、言語・思考・記憶・行為・学習・注意などに機能障害が起きた状態です。身体障害は、軽度もしくはほとんど見られない場合があり、職場に戻ってから高次脳機能障害の原因となるトラブルが起こり、問題が明らかになるというケースがあります。



聴覚障害・言語障害

聴覚障害とは、聞こえにくい、又はまったく聞こえない状態です。聞こえているけれども言葉の聞き分けができない状態もあります。ろう者、難聴者、中途失聴者など呼び方も様々です。

言語障害とは、発声機能の障害で、声のでない、なめらかに話すことが難しい、発声はできるが「言葉」がでない（又は適切な言葉が選べない）など様々な種類があります。生まれたときから聞こえない人の中には、発音が不明瞭など話すことが苦手な人もいます（重複障害）



内部障害・難病

身体内部の臓器の動きに障害がある状態です。心臓、呼吸器、じん臓、ぼうこう・直腸、小腸、肝臓、めんそき等の障害があります。外見からは分からないために、周りの人に理解されにくい障害です。

難病とは、原因は不明で治療法が未確立であり、かつ後遺症を残すおそれが少なくない疾病のことをいいます。



知的障害

発達期（おおむね18歳未満）までに生じた知的機能の障害により、認知能力（理解・判断・思考・記憶・知覚）が全般的に遅れた水準にとどまっている状態です。にがてぶんな分野、障害の状態は人によって違い、就職し、自活している方もたくさんいます。



発達障害

生まれ持った発達の質的偏りにより、日常生活に困難をきたしている状態です。相手の気持ちや感情を察する事が苦手な人が多くいます。自分の思っている事を上手く伝えられない。柔軟な考えや臨機応変の対応ができないなどコミュニケーション、想像力の障害があります。偏り方は個人で、それぞれ違い、多種多様です。



手話

主にろう者をはじめとする聴覚障害者が利用する大切なコミュニケーション手段です。手や指の動きだけでなく、顔の表情、手の位置や方向など、複数の要素を使って話をする「目で見る言語」です。



点字

視覚障害者が指で触って、文字を読み書きするために利用する文字です。縦3点、横2点の6つの点の組み合わせで作られています。



触手話

まず聞こえない障害があり、手話を使ってコミュニケーションをしている人が、見えなくなった場合に主に使う方法です。手話を使う盲ろう者や支援者が手話をし、相手はその手話を触ることで。



音訳

視覚障害者のために、図表や文字などの情報を音声化することです。



要約筆記

難聴者や中途失聴者をはじめとする聴覚障害者が利用する手段の一つで、発言者の話を聞き、その場で要約して文字として書き表し、伝えることで、会議や講演等でのコミュニケーションを円滑にします。



指点字

まず見えない障害があり、点字を習得していた人が、聞こえなくなった場合に主に使う方法です。点字を使う盲ろう者や支援者が両手の指6本を使って、相手の手に点字をうつことです。



拡大文字

視覚障害者のために、図表や文字などの情報を大きくすることで。



絵図等の視覚情報

知的障害や発達障害の人達などが、見通しがわかりやすいように、イラストなど目で見える方法で示すことです。コミュニケーションボードや絵カード等があります。

あやべ

人差し指と中指をみぎてひだりてこうかると右手、左手それぞれ立て、一方の手のひらに、もう一方の立てた人差し指と中指を2回あてる。



ありがとう

みぎてひだりてこうかると右手を左手甲に軽く当て、拝むようにする。



【手話表現の例】

ほかにも、「ひらがな表記」「サイン」「写真」など、多様なコミュニケーション手段があります。その人に応じた伝え方を工夫してみましょう。